

(1) 総合的な基本方針

公園の中に都市が広がるような、
まちと公園が舞台となる環境づくり

CITY IN THE PARK

区間2のテーマ

多彩な仕掛けと
多様な来場者

現状の評価点	のびのびと遊べる空間と 特徴的な事業者の存在
--------	---------------------------

課題	来園者に多彩なプログラムの 提供ができていない
----	----------------------------

解決策	事業者や近隣自治体等 関係者と連携した小イベントの創出
-----	--------------------------------

回遊性の向上

区間5のテーマ

公園をまちへ
まちを公園へ

現状の評価点	公園に愛着を持つ 利用者の増加
--------	--------------------

課題	公園と中心市街地計画区域と の連携が不十分
----	--------------------------

解決策	多彩な人々と連携をする プロジェクトの実現
-----	--------------------------

市が求める管理方針

- ① 快適な公園の維持管理
- ② 多様な主体の活動を活性化
- ③ にぎわいとるおいを創出
- ④ サービスの継続的改善
- ⑤ 健幸都市、ゼロカーボン



市が求める運営方針

- ⑥ 利用料金制の導入
- ⑦ 中心市街地活性化との協働

上質なみどりをまちと公園へ

住宅、道路、公園といった都市をかたちづくる施設が
それぞれの境界をきっちりともった形態ではなく、
まるで公園の中に、住宅や道路、あるいは商店街が広がるような
みどり豊かな都市環境のありかたを「CITY IN THE PARK」として提案します。

みどりはもちろんのことヒト・コト・モノ・情報といった資産を
まちと公園で相互に取り込み合い、住まう人、訪れる人が、
より豊かな都市環境と生活、体験を享受できる場を創出していきます。

Ⅲ-1 公園運営の理念

(1) 総合的な基本方針

- ・コンセプトシートサマリー
- ・将来的に草津川跡地公園が目指すべき姿
- ・5年間で目指すべき姿
- ・コンセプトシート

(2) 快適な公園の維持管理・運営の方針

- ・管理する上で大切な基本事項
- 公園のサードプレイス化 / ガーデンシティの具現化 / 体験型公園づくり

(3) 公園における多様な主体による活動支援の方針

- ・管理する上で大切な基本事項
- インクルーシブな公園 / 地域との協働 / 公民連携緑化

(4) 民間事業者のノウハウを活用した集客や自主事業の方針

- ・管理する上で大切な基本事項
- カルチャーパーク化 / パークブランディング / 規制緩和による柔軟な活動の場の創出

(5) 長期包括契約を生かしたサービスの継続的改善やコスト削減に向け方針

- ・管理する上で大切な基本事項
- 紡いで育てるチャレンジ / グリーンインフラネットワーク / 長期包括契約によるスパイラルアップ

Ⅲ-2 公園の効用の最大化とサービス向上のための取り組み

草津川跡地公園を管理する上で大切な基本事項

- (1) 快適な公園の維持管理・運営の取り組み
- (2) 公園における多様な主体による活動支援の取り組み
- (3) 民間事業者のノウハウを活用した集客や自主事業の取り組み
- (4) 長期包括契約を生かしたサービスの継続的改善やコスト削減に向けた取り組み
- (5) ゼロカーボン、健幸都市くさつの推進に向けた取り組み

CITY IN THE PARK を体現するための具体案

<p>(1) 快適な公園の維持管理・運営の取り組み</p> <p>ヒト・コト・モノ・情報が集まる場をつくり新しい文化の種を育む</p>	<p>(2) 公園における多様な主体による活動支援の取り組み</p> <p>3部会による市民の出会いの創出</p>	<p>(3) 民間事業者のノウハウを活用した集客や自主事業の取り組み</p> <p>自由な発想で新しい場の提案を行う規制緩和の</p>	<p>(4) 長期包括契約を生かしたサービスの継続的改善やコスト削減に向けた取り組み</p> <p>市民の声を拾いあげ生々発展を繰り返す公園運営</p>
---	---	---	--

① これからの草津川跡地公園で求められる姿

● 利用料金制導入により民間ノウハウを最大限活かした市民とつくる公園へ

年々厳しくなる行政の財政支出に加え、民間活力の導入が全国的に普及した社会的潮流をふまえ、公園全体が1つの事業体として自立する経営が求められています。草津川跡地公園も令和8年より5年間の利用料金制が導入される公園となり、民間のノウハウがより生かしくなります。防災、良好な環境、生物生息空間など重要な都市のインフラであり恒久的な資産としての都市緑地機能を生成発展させ、より市民が楽しく過ごしやすい公園に昇華していくことが求められます。市民の自主的な活動のサポートを行い市民と共に公園を作りあげることで市民がより過ごしやすい公園を創造し続けます。



● あらゆる人が受け入れられ、生活を豊かにする仕掛けを見つけられる公園へ

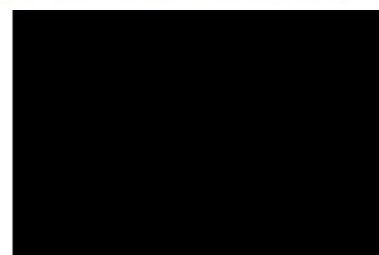
情報化社会が進む中で人は多様な価値観を持つようになり、生き方の変化とともにライフスタイルや人と地域の関わり方も多様化しています。

年齢や障がいの有無、性別に関係なく、あらゆる人を包摂する場として公園の価値が見直されています。よって次代の草津川跡地公園は、多様化する市民が草津の歴史や文化・人物など多くの価値に触れることで新しい価値・新しい暮らしを見つけることができる場所であるよう、常に開かれた誰でも参加できる居場所があり、自身のやりたいことが実現する市民活動ができる場であることが求められます。「未来ビジョン」の公園エリアの役割である緑とまちをつなぐ空間としてヒトが集い、コト・モノなど草津市の資源の循環が起きている公園が望まれています。



● 市民が関わることで、まちと共に変わっていく公園へ

草津川跡地公園は多くの人に愛され、発展してきました。市民が公園に関わることでそのことがまちへの投資となり、現在の公園に賑わいをもたらしています。税金による公共施設の維持だけではなく、市民が直接的にまちづくりに関わることでどのように公園とまちが変化していくか、視覚的・体感的に示す仕組みづくりを行います。市民がまちへの責任と誇りをもって公共空間に関わることでより公民一体となった空間へと発展します。



② 5年間の指定管理期間で草津川跡地公園が目指すべき姿

● 公園からまちへのひろがりを図る公園運営の次の展開

供用開始より8年が経過し、区間2と区間5ではそれぞれの使い方に特色が表れてきました。多様な方々に「健やかで幸せ」を感じてもらい生きがいを見つけてもらえる、草津市民が公園の外でも生き生きとすることが公園からまちへにぎわいが広がることに繋がります。そのためには区間の特色に合わせた拠点づくりの支援が必要です。

琵琶湖をみどりで繋ぐという草津川跡地公園のコンセプトを軸とし区間5はまちと公園を行き来する施策、区間2はふれあいをコンセプトに公園へ興味を与えるきっかけを提供します。



また、まちの活動に誇りをもち取り組んでもらうべく「市民活動（公園の個性）の見える化」を行います。現状として、公園のみどりや市民活動に興味はあるがまだ参加に至っていない市民が、本公園の設置目的や場としての役割、市民活動の具体的な活動内容を認知しにくい状況にあり、関わる世代に偏りが生じています。これらをより幅広い世代に分かりやすく届ける方法として、プレスリリース等、地元メディア、公園歴史探索会などで改めて公園の役割や“楽しみ方”を伝えます。「多様な活動主体」が“楽しみ”を目的に公園に集い、関りあい、高めあえる活動ができる仕組みと場づくりを並行して進めます。

● 中心市街地活性化事業を担う草津まちづくり株式会社と強く連携した取り組みを進める

草津駅周辺エリア未来ビジョンにおいて、草津川跡地公園は公園エリアに位置付けられており、多様な人々の交流を通じて、次代を育む多様性のまちが目指されています。このようなまちを目指すためには、草津川跡地公園指定管理者だけでなく、草津まちづくり株式会社と強力に連携し、歩行者利便増進道路の実現や、まちなかと連携した取り組みなどを進めていくことが求められています。

草津駅周辺エリア 未来ビジョン

概要

駅東エリア

表情豊かないつものまちかど次代を育む多様性のまち

草津川跡地公園で生まれたオープンスペースには、多様な活動の場を生み出すことが期待され、子育て世代の交流やこどもたちの遊びの場として、夜間は、住居街の人の出入りの場としての役割として、昼と夜とで異なる使い方も期待される見込みです。

公園エリア

使いこなす緑とまちを守りつなぐ共創と循環の場

いつもの公園で、まちの人々の暮らし、マインドを育む場を創出したい。一人一人が大切に守り、使いこなす公園を創出したい。公園を創出したい。公園を創出したい。公園を創出したい。

未来エリア

開放を受け継ぎ創出する場

市民の個人を創出した民間企業の活動、そこから創出される民間企業に繋がる創出の場。創出される民間企業が創出される創出の場。創出される創出の場。創出される創出の場。創出される創出の場。

● **公園の資産である市民活動、ガーデン、自主事業という活動から公園内外で輝く地域人材をはぐくみ、新たな価値の場を創造する**

供用開始から8年経過し、公園を通じて沢山の資産が形成され、積み重ねられてきました。地域や事業者、行政とともに、その価値をさらに伸ばし、人々がさまざまな場所で活動してもらうことで、公園の価値を高めてもらえる支援や取り組みを行います。



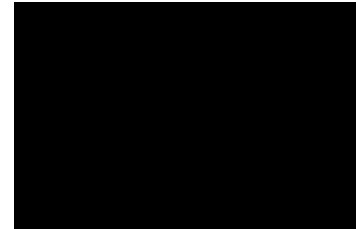
● **人と人の心をつなぐ歴史的価値のある公園を再定義する**

草津川という場は昔より人が集まり、つながる集いの場でした。歴史を引き継ぎ、くさねっこ活動は盛んとなりラジオ体操や健康マージャンなど多世代が集うことができる多様な取り組みが多く行われています。また、緑の管理活動部会を中心にみどりの市民活動も活発になり草津市民の集まる場所として公園機能を果たし始めています。草津川の市民生活が心の原体験となるよう仕掛け、地域活動に参加できる開けた場を提供することで草津川跡地公園を文化の中心とします。文化の中心地から健幸都市くさつとしてにぎわいがまちに広がるあり方を再定義します。



● **全区間が完成し草津市の骨格軸となることを視野にいれた戦略的、挑戦的な管理運営の推進を図ることにより経営基盤を盤石化する**

草津川跡地公園は、令和10年に区間6の共用が開始されるなど公民連携となる公共空間がひろがってきます。区間2と区間5は他の参考となるよう公的財源に頼り切らない運営を確立させる必要があると考えます。恒久的に市民に憩いの空間として安定的に提供できるように制度設計を検討しつつ自主財源を創出して経営的基盤を確立いたします。



公園の中に都市が広がるような、
まちと公園が舞台となる環境づくり

CITY IN THE PARK

上質なみどりをまちと公園へ

住宅、道路、公園といった都市をかたちづくる施設が
それぞれの境界をきっちりともった形態ではなく、
まるで公園の中に、住宅や道路、あるいは商店街が広がるような
みどり豊かな都市環境のありかたを「CITY IN THE PARK」として提案します。

みどりはもちろん、ヒト・コト・モノ・情報といった資源を
まちと公園で相互に取り込み合い、住まう人、訪れる人が、
より豊かな都市環境と生活、体験を享受できる場を創出していきます。

区間 2 のテーマ

多彩な仕掛けと
多様な来場者

現状の
評価点

のびのびと遊べる空間と
特徴的な事業者の存在

区間 2 は、広大な芝生広場を利用した市民活動や遊具での遊び、犬の散歩など多様な使い方がされています。ストロベリーファクトリーとグリーンロフトザパークという 2 つの事業者が存在し、特徴的な事業者プログラムでの活動が人気を呼んでいるなど市内外からも評判を得ています。

課題

来園者に多彩なプログラムの
提供ができていない

これまで区間 2 では大小のイベントを実施してきましたが、駐車場に限りがあるため、広大な敷地があるものの、来場者数を考慮する必要があり、大きな集客を伴うイベントが実施できず、イベントのプログラムの内容に制限がありました。

解決策

事業者や近隣自治体等
関係者と連携した小イベントの創出

来園者に多彩なプログラムを提供するため、市民でありながら公園で来園者をおもてなしするプログラムキャストを増やします。そのために、事業者や周辺自治体などに公園に関わっていただく仕掛けを多く作り出します。イベントの規模についても、駐車台数や、事業者（2 社）の利用状況を考慮し実施します。

区間 5 のテーマ

公園をまちへ
まちを公園へ

現状の
評価点

公園に愛着を持つ
利用者の増加

区間 5 はこれまで豊かな緑や多彩な景観に育まれた公園として美しい空間を醸成してきました。その結果、地域に根付いた活動が活発となり、散歩する人、周辺保育園の園児、学生、イベンターなど、公園に関わる人が増えました。また、くさねっこ活動などを通して、公園に対して関心や愛着を持つ利用者が増加しました。

課題

公園と中心市街地計画区域との
連携が不十分

区間 5 は中心市街地計画区域内に位置しており、まちづくりイベントが活発に行われています。しかし、公園やまちとの構造的な問題から、区間 5、市街地それぞれ単体のイベントとなりやすく、連携が十分に図れていません。

解決策

多彩な人々と連携をする
プロジェクトの実現

公園とまちが一体となったプロジェクトを実現するために、公園でのイベントを行う際に、中心市街地計画区域であるまちなかとの連携を図ります。また、まちづくり関係者と公園関係者と連携し、多くのアイデアによりまちから公園へ、公園からまちへと地域全体の活性化に寄与できるようなイベントを実施します。

回遊性の向上

区間 2 のテーマ(City in the Park を体現するための具体案)

多彩な仕掛け、多様な来場者

多くの人に来てもらえるようなふれあいの場を豊かにするアイデア
駐車場を圧迫しないようなにぎわいづくりのアイデア

快適な公園の維持運営

体験型公園づくり

緑とのふれあい

水のふれあい

農とのふれあい

常設企画実施によるサービスの平準化

公園における多様な主体による活動支援の方針

地域との協働

地域住民のふれあいの場の提供

公園の図書館化(移動図書館)

伝統・文化とのふれあいの場の提供

農とのふれあいイベントの実施

民間事業者のノウハウを活用した集客や自主事業の実施

規制緩和による
柔軟な活動の場の創出

動物、ミツバチの飼育

キャンプできる DAY、焚火の日の設置

餌やり体験

花火等活動の選択肢の多彩化

長期的包括契約を活かしたサービスの継続的改善やコスト削減に向けた取り組み

長期包括契約
による

動物のレンタル

区間 2 と区間 5 の交通利便性の向上

ネイチャープログラムの開催

PDCA サイクルの実施

区間5のテーマ(City in the Park を体現するための具体案)

公園をまちへ

公園にまち化のアイデアを導入

まちを公園へ

まちに公園のアイデアを導入

快適な公園の維持運営

公園のサイドプレイス化

ガーデンファニチャーの増設

雨天時でも利用できるサービスの拡大

スポットクーラーやコンセントが使用できる日よけスポットの設置

給水スポットの設置

ガーデンシテイの具現化

草津市まちづくり(株)との連携強化

ガーデンファニチャーの提供

日よけ施設の増設

公園における多様な主体による活動支援の方針

インクルーシブな公園

事業者による料理教室

ペットの散歩がしやすくなる取り組みの実施

公・民連携緑化

ベランダ緑化

まちなかへの植樹活動の推進

歩道緑化の支援

民間事業者のノウハウを活用した集客や自主事業の実施

カルチャーパーク化

Park in Library
(公共施設を公園へ)

商店街と公園に「屋台通り」の常設化

寄付本による公園図書スペース化

パークブランディング

周辺分譲やテナント管理へのパーク化の概念の落とし込み

長期的包括契約を活かしたサービスの継続的改善やコスト削減に向けた取り組み

紡いで育てる
チャレンジ

案内マップ(まち)の設置

グリートワーク
ネットワー

公園の資源を活かした活動の実施

自由作業スペースの設置

昆虫等のネットワーク

PDCA サイクルの実施

(2) 快適な公園の維持管理・運営の方針

① 草津川跡地公園を管理する上で大切な基本事項

まちにある公園が快適であり、植栽が美しく保たれていることは、公共空間としての「安心・安全」が保障されている状態であると考えます。本公園が市民にとって心安らぐ居場所（サードプレイス）であり、そして何度も訪れたいくなる魅力的な場所であるために、「ふれあい」をテーマとした楽しみや魅力的な企画を提供できる施設及び植栽管理を実施します。

合わせて区間5においては、草津まちづくり株式会社と連携を強化した公園運営とまちづくりに取り組みます。

● 公園管理方針の正しい理解とスパイラルアップする公園・植栽管理

公園の設置目的（草津川跡地利用基本計画）で描かれた緑軸による活力のあるまちづくりを市民と事業者が一体となって実現できるように草津川跡地公園管理運営会議を運営します。

快適なガーデンを維持するために基本計画のランドデザインの趣旨をよく理解し、目指す景観と現状の差異を認識し課題をとらえ、植物の生育段階が見える化した空間的指標を設定します。

植栽管理マニュアルを基本に年間管理運営計画を立て、PDCA マネジメントで景観向上を行います。

草津市、設計者、施工者、指定管理者、まちづくり会社、事業者、市民が一堂に会し実施する“センサーツアー”は年4回程度季節毎に実施します。ツアー内で出た意見を基に公園の運営・管理、市民がより公園を使いこなせるように改善を図ります。



● みどりの位置づけを維持し、植栽に関して市民が参加できる場を増やす

指定管理に携わった6年で積み上げた市民活動のマネジメント技術や植栽管理技術のノウハウを活かし、市民活動の場を広げていくことで公園への愛着が更に育まれる機会を創出します。

案内看板やマンポなどのフォーカルポイントや入り口周辺を市民参加型花壇として整備し、地域住民との連携を図ります。

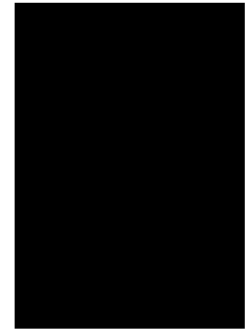
公園の魅力の一つである堤防の桜を市民と共に見守り育てる活動を継続します。



● 6年間にわたる草津川跡地公園の指定管理経験で培った“高いレベル”の安全・安心・快適な管理を実施します

設計段階から携わり、植栽当時から現在までの事象を基に、来園者の方に安全な施設管理、景観の快適さを享受していただけるメンテナンスを実施します。

業務の均一化（誰が巡視しても同じ水準で点検が実施できる）、効率化、見落とし等の発生が無いように、**点検マニュアル**、**巡回マップ**、**施設別チェックリスト**を作成して点検、必要に応じて補修整備、良否の監視を行います。**記録は適切に保存**し、提出の請求に対しては遅滞なく提出できるよう対処します。



● 専門の技能や資格や経験を有するチームでスクラムを組み“柔軟な”管理運営を行います

管理・運営スタッフは、維持管理・運営の専門の能力と資格を持つ従業員もしくは同等の能力を有する従業員を配置し、その管理下に数名の維持管理・運営スタッフを置きます。

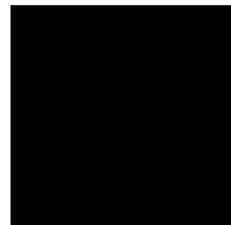
スタッフは、作業手順書を作成して問題点やリスクの洗い出しを図り、日々の業務のマニュアルとして完成させ、あわせてOJTやロールプレイングによる維持管理・運営業務の質的向上と効率化（生産性の向上）によりスキルアップを図ります。

構成員の西武造園には、公園の管理運営業務に有効な資格を持つ人員が多数在籍しています。有資格者による技術指導・支援を受けながら、職員の技術向上や公園の魅力づくりに反映します。

【所有資格】

公園管理運営士、造園施工管理技士、樹木医、公園施設点検管理士、自然再生士、学芸員、自然観察指導員、自然体験活動指導者、イベント業務管理士、PRプランナー、ソトノバスタジオ「ライタークラス」「Park (ing) DAYクラス」等

利用ピーク時期には、臨時職員を派遣して従事スタッフを増員し、利用者への対応や安全管理、サービス提供を行います。



● 植栽管理マニュアルの更新と積極的な人材育成

植栽管理マニュアルに基づきゾーン毎に設けられている管理方針をよく理解したうえで植物の管理スタッフや設計者、市が共有できるようなスケッチなどを持ちいた空間的指標を設定し、当初に設計されたデザインによる景観の創出（デザイン管理）を推進します。

開園から9年目を迎え、旺盛に生育している植物や気象・土壌条件などにより生育が不十分、もしくは枯れてしまった植物も散見されるため、積極的な剪定や補植を推進します。

来園者が心地良いと感じていただけるような、心や愛情が込められた丁寧な景観づくりを行います。

危険動植物対策については、来園者に害を及ぼすことがないよう細心の注意を払って巡視や点検を実施します。発見した場合や来園者から通報があった場合は、速やかに対処し、危険動物が生息しにくい環境づくりに努めるなど、安全確保に努めます。

全ての管理スタッフが高いレベルの管理を行えるよう、視察ブックやDVDによりコンセプトや設計方針を理解させると共に、高い造園管理技能を持つ技術者が育成を行います。

管理スタッフを地域から雇用し、育成することで植栽管理技術の継承を図ります。

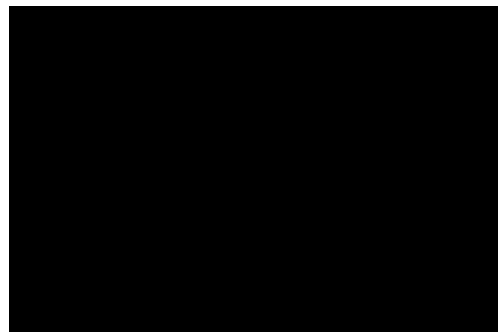


● 「6つのS」で、利用者にとって快適な、ホスピタリティあふれる接客を推進します

安全（Safety）、スピード（Speed）、親切（しんせつ）、正確（せいかく）、スマイル（Smile）、清潔（せいけつ）の「6つのS」を念頭に置き、来園者に快適なサービスを提供します。

シーパsparkや他の都市公園で培ったサービスのノウハウやおもてなしの精神について研修などを通して実践いたします。

来園者が声をかけやすいようスタッフ共通の制服を着用します。



● 公園に関する情報をタイムリーにわかりやすく発信し、その効果などを常に検証します

公式WEBサイト、Instagramにおいて月間イベントスケジュール、くさねっこプログラムを毎月更新し、季節に合わせてスケジュール等を掲載してきました。今後も市民の知りたい情報や、イベントなどの情報をリアルタイムに発信・掲示し、アンケートなどでその成果や反省点を把握し改善します。

来園者に施設案内やイベント情報が分かりやすいように、近隣駐車場（タイムズ駐車場）との連携及びユニバーサルデザインを採用した適切な内容の案内看板や情報掲示板を整備します。

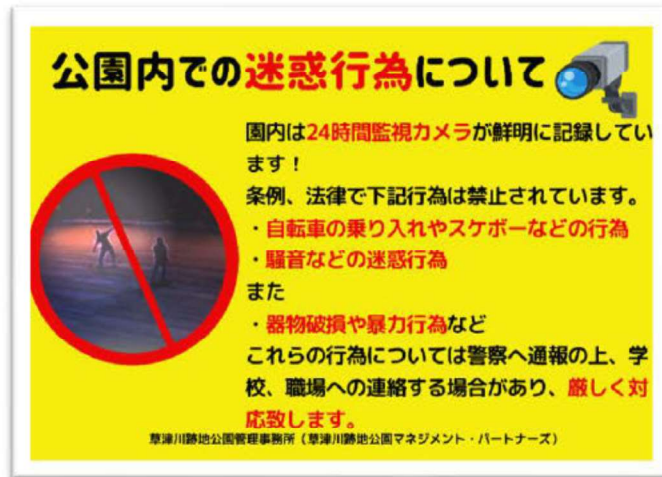
● 『公の施設』として、公平・平等・安全・快適に公園を利用して頂きます

全スタッフにコンプライアンスや公共サービスや安全管理、接遇に関する教育及び指導をします。

園路や施設が安全・快適に利用できるよう、毎日巡視を行います。巡視では、公園内の安全面、衛生面、機能面を確認し、安心安全な施設運用に努めます。

● 公園利用のマナーの課題に関し、行政・警察・地域と連携して解決します

園内の巡視や利用者からの情報により、解決すべき公園利用マナーの課題を認識しています。市民に快適に公園を利用してもらえるよう、スタッフの声掛けと共に地域や関係部局と協力してマナー向上に努めます。



② 公園のサードプレイス化

● 季節・天気を問わず過ごしやすい場所を創出する公園とまちの居場所づくり

近年の公園は市民が自由に集まり憩う場所としての需要が増えてきています。季節や天候を問わず過ごしやすい場所の日よけ施設や給水スポットの設置等を行い、公園を利用しやすい空間へと整備します。

公園内でスポットクーラーを使用できる場所や充電スポットがあるなどコンセント活用や雨の日でも公園へ来ることが楽しくなるような利用方法がある場所として検討を行い、快適で居心地のよい公園を運営します。

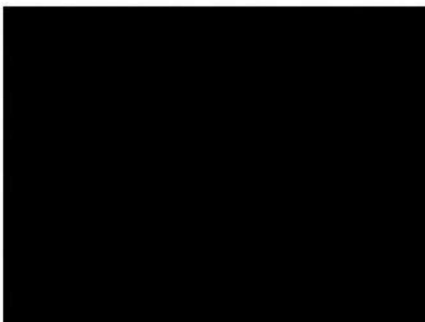


③ ガーデンシティの具現化

● 公園とシームレスにつながるまち草津

草津川跡地公園は第3期までの指定管理において四季・八季の移ろいを感じる高質なガーデンとして植栽管理を行い、安心安全な設備管理を行うことで市民に愛される公園となりました。併せてまちへはガーデンストリート事業によりまちなかへのみどりの広がり貢献してしてきました。しかし、ガーデンストリートでは新規参入が見られないなどみどりの広がりがまだ発展途上といえます。次期指定管理においては、公園のみどりをまちへ広げていくために公園主催の講演会開催や市民参加型の整備花壇増設検討など積極的に関わることで第3期みどりの基本計画にのっとりガーデンシティくさつへの推進を図ります。

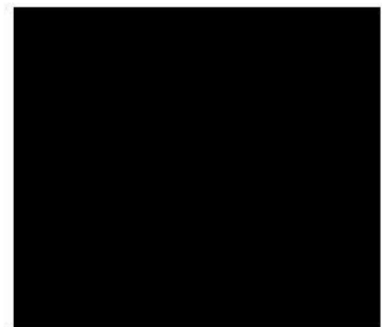
草津まちづくり株式会社と連携を行い空き家活用や空きスペースを活用したガーデンファニチャー設置などまちでも豊かなみどりを感じることができる施策を行います。



④ 体験型公園づくり

● 訪れるたびに新たな体験と出会う場所の提供

公園の管理運営を行う上で、四季・八季による景観の移ろいや美しさを提供するだけでなく「ふれあい」をテーマとした楽しみや魅力的な企画を提供して何度も訪れたいとする目的のある施設及び植栽管理を実施します。



(3) 公園における多様な主体による活動支援の方針

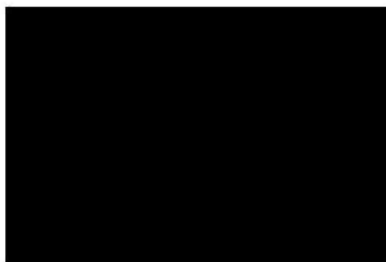
① 草津川跡地公園を管理する上で大切な基本事項

草津川跡地公園は周辺に市街地が広がっていることや公園の指定管理者とは別に事業者が公園の運営に携わっている珍しい公園です。3部会のコーディネーターが事業者や地域に働きかけることで多様な世代が楽しめる「インクルーシブな公園」となり、地域と密接につながりあう「地域との協働」がおきる都市公園に醸成することができます。また、民間事業者がコーディネーターとして入ることで市民と公の結びつきを支援することが可能となり「公民連携緑化」の推進が期待されます。

● 多様な主体との連携促進により多種多様な市民活動を創出し、公園内外へ展開していきます

A：コーディネーター連携（市民活動×緑×事業者）を活かしたプログラム開発を支援します

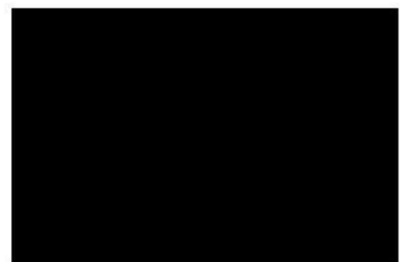
- ・草津川跡地公園の運営方針として最も特徴的である、市民活動・緑・事業者それぞれのコーディネーター間の連携を活かしたプログラムを開発します。
- ・草津川跡地公園で活動する緑の活動団体と緑をテーマにしたくさねっこプログラムが連携し、公園の機能を活用する充実したプログラムの開発につなげていきます。
- ・草津川跡地公園で展開されている事業者を巻き込んださまざまなイベントとくさねっこプログラムの連携を図ることで、市民活動主体と営利事業者の双方の活動を刺激し合いながら、より公園利用者や地域にとって充実したプログラムを展開していきます。
- ・以上のプログラム開発や活動支援を通して、公園内（区間2、区間5）だけでなく公園外での活動の展開を図っていきます。



ローズガーデンで開催した
プログラム



生活を豊かにするガーデンプログラム



くさねっこカフェプログラム

B：さまざまな分野・主体（事業者・企業）との連携を促進します

- ・草津市の市民活動支援拠点との連携を図り、くさねっこパフォーマー登録を促進すると合わせて、くさねっこプログラムの公園外での活動展開を促進していきます。
- ・大学や高校、小中学校、研究施設や企業などの主体と連携し、公園の機能を活かした多種多様なテーマに特化したプログラムを展開していきます。

C：草津川跡地公園と市民活動がより身近なものとなるための広報展開を図ります

- ・毎月発行している「くさねっこカレンダー」やWEBサイトによる情報発信「くさねっこアーカイブサイト」、FacebookやInstagramなど公式SNSによる情報発信では、デザインや写真のクオリティを高めることにより、女性や子育て層、若者を対象にしたブランディングを図

り、くさねっこのイメージの向上を図ってきました。引き続き、充実した情報発信を展開していきます。

- さらなる情報発信の充実を図ると同時に、草津川跡地公園や市民活動を地域や市民により身近に感じてもらうために、すでに情報発信を展開している地元ラジオとの連携をさらに強化していくとともに地元情報誌やweb サイトとの連携を強化していきます。さらに、公式アカウントだけでなく、パフォーマーやチームメンバー自身が発信していくためのサポートを展開し、SNS 発信の強化を図っていきます。
- 草津川跡地公園の市民活動「くさねっこ」の取り組みの理解を広げていくために、アニュアルレポートを作成しています。さらに内容を充実させていくとともに、Web サイトでの展開などアニュアルレポートを効果的に活用し、「くさねっこ」の理解を広げていきます。

● 市民活動コーディネーターに関する専門知識の地元への定着を図ります

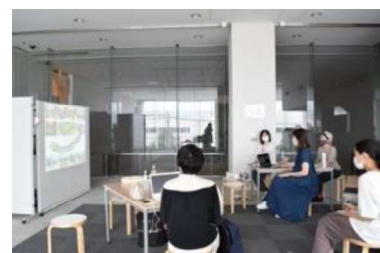
- 2020 年からコミュニティデザインのスキルを持つ専属の市民活動コーディネーターを配置し、くさねっこパフォーマー登録制度を整備し、コーディネーターによる活動支援を図り、多い時には月に 25 プログラムが開催されています。引き続き、コーディネーターによる市民活動支援を継続していきます。
- 新しく地元人材を雇用し、コーディネーター人材として育成し、コーディネーターの持つ専門的なスキルの地元への定着を図っていきます。
- コミュニティデザイン手法を活用して市民活動支援を実施している他の施設と連携して、コーディネーター研修プログラムを開発・実施しています。これらのプログラムも活用した研修、また、OJT などにより育成を進めていきます。
- 市民活動のさまざまな知識を学ぶスキルアップ講座を実施し、市民活動主体の発掘や継続的な人材育成を図ります。



コーディネーターへの相談窓口
「くさねっこ相談室」



「くさねっこカレッジ」の様子



コーディネーター研修の様子

● 共通の課題やテーマと一緒に取り組み、みんなのチャレンジをビジュアル化して、まちへと展開します

- カーボンニュートラルや健幸都市くさつなどのテーマでは、公園だけでなく、まちも巻き込むことが必要です。広いステークホルダーと課題を共有し挑戦するプラットフォームとします。
- 全体会では公園を拠点に生じる新たなプロジェクトを応援し、支援の輪を広げる役割とします。

● **各部に専門コーディネーターと地域人材を補佐として配置(常勤)し、支援の強化と部会連携強化、人材育成を図ります**

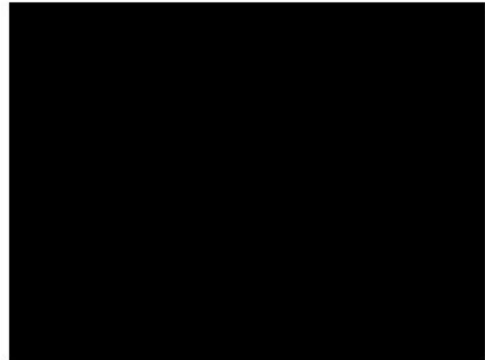
- ・ 専門的ノウハウを持つコーディネーターを各部に配置し、コーディネーターは公園に常勤します。また、地域人材を雇用し、将来的なコーディネーターとして活躍していただける人を育成、ノウハウの提供を行います。

② **地域との協働**

● **地域の人々の中心となる交流空間へ**

区間2は特徴のある事業者が運営を行う地区があるため、区間5と比べると草津市外の利用者も多く、公園周辺の市民の利用はグランドゴルフや犬の散歩など利用方法に限りがあるような状態です。地域の人々が気軽に訪れ、交流する空間になるよう教養室を利用したお話会の場づくりや自身の知識を生かした交流プログラム支援などを行います。

目的があるから訪れる公園という側面を育てつつ、地域の方が交流をできる新しい空間創出に向けた管理運営を行います。



③ **インクルーシブな公園**

● **多様な世代・人が集う開かれた公園運営**

現在の公園では体力づくりを兼ねた散歩をされる方や学校帰りに遊ぶ子どもたち、商業エリアでご飯会をする親子、福祉施設の方の休憩利用など様々な世代・人が集まる公園となっています。次期指定管理では、集まっている人たちが互いに関わりあえるような仕組みを生み出します。互いに関わりあうことで事情や現状を尊重しあうことにつながります。我々は多様な世代・人たちが集まるだけでなくゆるやかに関係が混ざりあうような公園運営を行います。

④ **公民連携緑化**

● **コーディネーター主導のもと公園・街・人が連携し、まちなかの余白でみどりを育てます**

みどりは人に安らぎを与え、人が自然と集まるような効果を持っています。みどりのプロである公園指定管理者、市民、そして街をコーディネーターがつなぎ支援を行うことにより、公・民連携がとれた憩いの空間創出を行うことが可能となります。

市民と連携してみどりの空間を作ることは、設置して終わりという一過性のプログラムではなく共にみどりを育てることに繋がり、人が集まり交流しあえる豊かな活動支援につなげます。

ウォークアブルなまちづくりを目指し、現在のガーデンプログラムを人により密接に関わるみどりのプログラムに発展させ、まちなかの植栽空間創出の促進に努めます。

